

教員名	菅野 健 (KANNO Ken)
所 属	文教育学部言語文化学科英語圏・欧州言語文化講座
学 位	文学修士 (1975 東京大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	

◆研究キーワード

ドイツ語 / ドイツ文学 / トーマス・マン

◆研究内容

お茶の水女子大学には、専門のドイツ文学のコースがないため、(現在ドイツ語の専任はひとり) コア科目としてのドイツ語を全学部の学生を対象としていかに丁寧かつ効率的に教えるかということ、常に一方の研究課題にせざるをえません。お茶大生のために長年の研究成果として『改訂・ドイツ語の文法』(2002年第三書房刊)を作成した後は、さらにどこをどうすればさらに良くなるかを考え続けています。この教科書は何よりもまずお茶大生のことを念頭において作成したものではありますが、他大学でも好評で、これまで全国のさまざまな大学で使われております。

ドイツ文学の研究対象としては、ゲーテ、シラー、ショーペンハウアー、ヴァーグナー、ニーチェなどの影響を多大に受けた、20世紀最大の作家のひとりトーマス・マン(1875~1955)を主たる対象として考察を続けております。

◆教育内容

「ドイツ語初級」は文Aと理Aというクラスを「文法」と「演習」の週2コマずつ担当し、一年間でドイツ語の基本を、しかもかなり高度なところまで教育いたしました。週2コマの授業で学生との親近感も強くなり、教育の成果は独検合格などにも現れております。

「ドイツ語中級」は文教育学部対象のクラスで『ドイツ・ことばと文化—やさしく読めるドイツ文化史—』というテキストを使い、さまざまな観点からドイツ文化について考察を加えながら、「初級」で学んだドイツ語の知識を着実なものにしていくことを目標としました。

「ドイツ語上級」では『そもそもドイツとは?』というヴァイツゼッカーの論文を丁寧に読みつつ、ドイツとはいかなる国で、ドイツ人とはいかなる民族なのか、一方ではドイツ語の知識を深めながら、考察しました。

専門科目の「独文学演習」(大学院は「近代独文学演習」)では、トーマス・マンの『混乱と若い悩み』を一字一句おろそかにせず精読しながら、トーマス・マンの問題意識、時代の精神状況なども検討しました。

◆将来の研究計画・研究の展望

最高レベルのドイツ語教科書『改訂・ドイツ語の文法』をさらによりよきものにしていきたいと考えています。

ドイツ文学の分野ではルター、レッシング、ゲーテ、シラー、ショーペンハウアー、ニーチェ、ヴァーグナーなどの精神の流れの中で、トーマス・マン（1875～1955）をとらえたいと常に考えています。

現代ドイツ文学にも大きな影響を与え、さらに日本の作家三島由紀夫・辻邦生・北杜夫・村上春樹などへの影響も論じられるトーマス・マンを主たる考察の対象にし続けたいと思います。

◆受験生等へのメッセージ

残念ながら専門のコースはないのですが、ドイツ語・ドイツ文学を、広く豊かな世界観・人生観を得るべく学びたい人はどうぞ入学してください。

ドイツ語の論理的構造をしっかりと学ぶことは、どのような分野を専攻するにせよ、その専攻分野の認識を深めることに役立って行くと思います。ドイツ語の基本構造を理解・分析する能力を高めていくことは、専門分野をより深く理解・分析する能力を高めることと同時並行的に起こっていくことでしょう。